キャラクター名
華咲 矢舗（はなさき やしき）

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ キュマイラ	ワークス	高校生	カヴァー	UGNチルドレン
オプショナル		年齢	17	性別	男
覚醒	感染	衝動	闘争	初期侵食率	30 %
出自	結社の一員	経験	純粋培養	邂逅	秘密

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	5	1	0			6
感覚	1	0	0			1
精神	1	0	0			1
社会	1	0	0			1

HP	33
行動値	3
(非装備時)	3
戦闘移動	8
全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	2		交渉		
回避	1		知覚	1		意志			調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：噂話	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
ポルターガイスト武器	白兵	6r		9		
		0		9		
		0		9		
		0		9		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
要人への貸し	
幹部	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
D:戦闘用人格	P	N		
S:相棒（ニホンオオカミ）	P 連帯感	N 不安		
仲間のやつ（本名:橘 青緒）	P 好意	N 劣等感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 2	残り財産P： 0

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
MAXボルテージ	3	4	メジャー	-	-	対決	80	
効果：	A+10 D-1 シナリオLv回							
フルインストール	3	5	イニシア	至近	自身	自動	100	
効果：	D+Lv×3 シナリオ1回							
完全獣化	2	6	マイナー	至近	自身	自動		
効果：	シーン中、肉体のD+Lv+2							
魔獣の衝撃	1	2	メジャー	視界	-	対決		
効果：	A+5 D+Lv							
魔獣の本能	1	2	メジャー	-	-	対決		
効果：	RCを肉体で							
究極獣化	5	4D10	マイナー	至近	自身	自動	120	
効果：	与えるダメ+LvD 装甲+10							
雷の槍	1	2	メジャー	視界	-	対決		
効果：	A+Lv×2+4 D-1 至近不可							
雷神の槌	5	3	メジャー	視界	範選	対決		
効果：	A+6 至近不可 シナリオLv回							
CR:キュマイラ	2	2	メジャー	-	-	-		
効果：	C-Lv（7）							
ハードワイヤード	4	初4	常時	至近	自身	自動		
効果：	武器取得							
イオノクラフト	1	1	マイナー	至近	自身	自動		
効果：	飛行移動 距離+Lv×2							
加速装置	3	1	セット	至近	自身	自動		
効果：	行動+Lv×4							
ポルターガイスト	1	4	マイナー	至近	自身	自動	100	
効果：	武器のAだけ自分のAup 武器破壊							

俺の名前は華咲
矢舗。俺は生まれた時からレネゲイド発症者だ。それは両親も発症者だったからだ。そして、両親はUGNエージェントだから、俺はチルドレンになった。
俺がチルドレンになってからすぐの事、冬山にいるEXジャームを排除しろという任務を遂行するために、冬山を登っ
た。
だが、EXジャームを排除した帰り、迷い、遭難してしまった。このまま一生を終えるのか、そう思った時、それは現れた。
ニホンオオカミ…山の大神の化身。すでに絶滅した筈の獣だ。その狼は俺に道案内をしてくれた。そして、俺は山から出ることが出来た。
俺がふと目を離すと、その狼はどこかへ消えていた。
今思うと、それは幻覚だったとも思えてくる。だが、そいつのお陰で山から出ることが出来たのも事実だ。
あれから時がすぎた。あの時の礼を言えてないことが気にかかり、もう1度あの山に行ってみようと思う。そして、呼びかける。狼、あの時は助かった。面と向かって礼がしたい。出てきてくれ。と
すると、あの時のニホンオオカミが現れた。そして、俺は改めて、礼を言った。すると、そいつは俺の手に触れ、また、消えていった。その時、体の中が温かくなった気がした。それから、俺は自由にあいつを呼び寄せれるようになった。あいつと言葉で会話することが出来るし、心の中で通じ合えるようにもなった。なんで、俺に懐いたのか。それは分からない。でも、あいつは俺を選んでくれた。だから、俺はあいつの事を相棒と呼ぶことにした。

俺は自分の日常ってのが何なのか分からなかった。そして、俺はなぜ任務をこなすのかも分からなかった。考えたこともなかったからだ。
なぜこんなことを言い始めたのかと言うと、ある仲間と一緒に任務をした時、そいつに聞かれたんだ。
「なぁ、お前は依頼をこなす時、なんか心意気というか、護りたいものとか無いのか？」
俺はその質問に困ってしまった。なぜならそんなこと、考えたことも無かったからだ。
「うーん。俺はそういうこと、考えたことねーな。お前はなんかあるのか？」
そう聞き返すと、そいつは、
「俺は…仲間を傷つけられたくないな。」と答えた。
俺は、それに共感をした。そして、そいつの思いを壊されたくないとも思った。

キャラクター名：華咲 矢舗（はなさき やしき）

プレイヤー名：

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

所持品			

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
獣の魂	3	5	オート	至近	自身	自動	100	
効果：	肉体判定のD+5 シーンLv回							
魔獣の証	1	4D10	オート	至近	自身	自動	120	
効果：	HPLv×10蘇生 シナリオ1回 重圧無効							
	★							
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								